大阪 歯科
保険医新聞
12/15
2008年第996号
（毎月5、15、25日発行）
大阪府歯科保険医協会
発行人　志岐　敬
大阪市浪速区幸町1-2-33
電話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円　月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

大阪府
４医療費助成

「削減ありき」浮き彫りに
研究会報告に改悪の試算並ぶ

大阪府の橋下徹知事が「大阪維新プログラム案」の中で打ち出した4医療費助成制度の改悪方針を検討する府と市長会、町村長会でつくる研究会が11月27日、報告書をまとめた。橋下知事が主張する1割負担化については、引き続き検討課題としたものの、所得制限の強化や一部負担金の増額など、改悪のための試算が並んだ。報告書では、現行制度の維持や拡充の方向が示されることはなく、削減ありきの研究会の姿が浮き彫りになった。

同制度は、乳幼児・ひとり親・障がい者・高齢者を対象に1回500円（1医療機関あたり月2回まで自己負担）で受診できる。1カ月の合計が2500円を超えると、市町村で申請すれば超過分が償還される。現在、61万4432人の府民が助成を受けている。

1割負担化について研究会は、市町村窓口の償還払いが現行の120倍に増加し、維持コストが44億円必要になると推計。助成削減額の40億円を上回るとして、現状での1割負担化に疑問を呈した。その上で報告書は、①現行の負担日数を増やす②一部負担金の増額③入院時の負担の見直し④救急医療の時間外加算――の4つの改悪案（表）を提示した。報告書によれば、府と市町村合算で最大年間27億6000万円もの負担を府民に押し付けることになる。9月定例府議会では、4医療費助成の維持を求める請願が主要会派すべての賛成で採択されたが、報告書には反映されていない。

4月に橋下知事が同制度の改悪を打ち出して以降、協会は「受診抑制を招き、府民の命と健康に大きな影響を与える」として反対運動を展開。多くの団体・府民と一致して取り組み、今年度からの改悪実施を当面、見送らせた。今後、さらに府民の声を結集し、4医療費助成制度の改悪を撤回させなければならない。

研究会が示した改悪案（研究会報告書より作成）

改悪案	内容	削減見込額（府＋市町村）
日数の見直し	500円／日(月2日)→月3日	10億8000万円
一部負担金の見直し	①500円→600円 ②500円→800円	9億2000万円 27億6000万円
入院時の負担の見直し	①1000円(500円×月2日)→2500円／月 ②500円／日(月2日)→月5日	4億2000万円 4億2000万円
救急医療の休日・時間外加算	500円／日を加算	1億円

署名に寄せられた会員の声

2兆円バラマキを社会保障に

・2兆円の一部でも社会保障費にまわすべき
・これ以上の悪政は憲法で保障された最低限の生活もできない人をさらに増やすことになる。天下り法人をなくせばもっと必要なところに予算をまわせるはずである
・これ以上補綴関連の保険点数を引き下げると技工士の離職が進み、仕事がスムーズに行えない状態になりかねない。
・社会保障を充実させ国民の将来不安を取り除くことこそ最大の国益だ
・医療は一番基礎をなす大切な社会資本である
・国民が一番心配していることは将来に対する不安です。社会保障費を増やして国民を安心させてください
・歯科の低点数項目の見直し、再診料の引き上げ
・生きる安心の費用を削ってどうする！天下りをやめろ！
・数値目標達成のためだけに仕事をするのでなく、もっと現実をみてくれ！
・後期高齢者制度の完全撤廃をお願いします
・税金の無駄使いをまず徹底的になくしてから論じるべきだと思います
・弱者をいじめるな！
・社会保障は基本的人権にかかわる重要事項です
・もっと社会保障費を多くしないと患者がつらい思いをします。医療事故にもつながります。社会保障費を削減するな！世界では日本ほどこの費用が少ないところは他にない！
・我われを振り回してばかりでもう本当にうんざりな気持ちです。落ちついた診療環境を確保してほしい
・社会保障費を削りすぎると医療崩壊をおこします。そして経済も。イギリスの例もあります。医療には人の手がいります。雇用問題も解決できますよ
・上下総義歯の方の点数が低すぎる。調整でおかしいのに1日110点で後は再診のみはおかしいと思います
・窓口負担が重く、高齢者や若年層の受診が著しく低下し、保存可能であった歯が残せないという状況がよくあります。窓口負担を軽くし保険で十分な歯科治療を行える様希望します
・患者さんの為になる医療費削減を廃止すること
・私は73歳で、一日の患者数が1～5人です。ますます経営が苦しいです
・次は血判を押します
・この閉塞感の窮まる今こそ庶民の将来の展望の妨げとなる、社会保障費の削減などするべきではありません
・健康増進は憲法で決められた国民の権利であり、このような医療費削減はこれからの高齢化社会において国民の権利を侵害するものである
・これからの高齢化社会にさらなる医療や、保険の拡大は必要不可欠である
・医療の現場が崩壊し、国民全員がダメージ受ける事になる、絶対反対！
・国民の医療に対する要求はすべて医療側に負担させて、責任逃れの制度ばかり作るのは即刻やめるべき
・社会保障は優先順位の高い支出であり削減なんてありえない
・歯科医療の大切さを改めてご認識願います
・定額給付金を後期老人、無保険の子供に
・医療に関して需要と供給の関係のみで物事を判断しないこと
・無駄な道路建設をやめて命を守る政策を
・年金生活者になる時が恐いです
・大変微力ながらも歯科の力を一つに結集させ、活路が見出せるように頑張る
・政党助成金をなくせ
・長年、国の為に働き、今ご自身の健康を考えるときに金銭的な負担が多く、断念する事のないような社会づくりをしていただきたい
・医療に対する評価が低すぎる
・国民の声を聞いてください
・政府は医療を向上させようと思っているのか衰退させようとおもっているのかどちらですか

12月度生涯研修

不正咬合の原因追究が重要
井上氏「指しゃぶり」などポイント指摘

協会の歯科臨床・学術学会部は7日、「学校検診や毎日の診療で発見してほしい子どもの不正咬合・顎関節の問題と対応のあり方」をテーマに、生涯研修講座を開いた。講師は、井上裕子氏（池田市開業）が務め、歯科医師ら92人が参加した。

不正咬合などの問題発見のための着目ポイントを説明する井上氏（右）と真剣な表情で聞き入る参加者＝7日、M＆Dホール

井上氏は、「『子どもの時に気づいてあげれば、こんな難症例にならなかっただろうに』と思うような残念な症例や、また、小さい頃から矯正治療を長年受けてきたにもかかわらず、残念な結果に終わっている症例などに度々遭遇する」と述べ、将来、不正咬合や、顎関節症となっていくであろう問題の芽を摘むために、どういった点に注意して日々の診療をすべきかを説明した。

同氏は、実際の症例のスライドを交え、問題発見のための着目ポイントや、子どもの顎関節をどう考えるか、カリエスリスクやペリオリスクのアドバイス、子どもとお母さんへの接し方など、各ポイントに分けて詳細に解説した。

特に、一般臨床家にとって、何が原因で不正咬合を引き起こしているか考えることが重要で、その要因として「指しゃぶり」「舌癖」「嚥下」「咬合」「口腔周囲筋」などのチェックを日常からする必要があると、MFT（口腔筋機能療法）などの話を交えながら指摘した。

同氏は最後に、「我われは子どもたちに最大の幸福を与えてあげられる治療をすることが責務である」と締め括られた。

（淀川区・林哲平）

年末年始の業務についてのお知らせ

協会・協同組合の年末年始の業務、本紙の発行は、次の通りです。

【業務】12月29日から1月5日まで休務、6日から業務を開始します。

【新聞発行】12月25日付と1月5日付を合併し1月1日付新年号として発行し、1月15日付は休刊、1月25日付から通常発行します。

各種相談室
専門家がおこたえします

雇用相談
【日　時】1月15日（木）午後2時～4時
【相談者】桂好志郎　社労士

税務相談
【日　時】1月21日（水）午後2時～5時
【相談者】柄溝宗生　税理士

法律相談
【日　時】2月2日（月）午後2時～4時
【相談者】河村武信　弁護士　※1月はお休み

相談料は無料、会場は保険医会館1Fです。事前予約制で、1週間前に締め切ります。

歯界

浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」は赤穂浪士の敵討ち事件を題材にして、「太平記」の時代に模して創ったフィクションである。武士道などの当時の価値観は、同じ題材の後の作品群に強く影響した。

さすがに、芥川龍之介の短編や大仏次郎や堺屋太一の作品ではこの拘束から抜けている。だが武士道の自己犠牲的なイメージは美化されて、国際試合での全日本チームにアップリケされたりする。

坂本竜馬を筆頭に幕末の下級武士は、家筋などの権威に忠実に服する武士道を軽視した。髷を切って刀を捨てても、歪んだ武士の優越意識が減るにはさらなる時の経過が必要だった。

馬鹿殿様に忠実な武士道には吐き気がするが、「殿」を「公」の象徴と考えれば、私利私欲に身をやつす「公人」だらけの現代社会に武士道はすがすがしく映る。

大晦日に忠臣蔵を観る人は私利を無視して公益を守り、公務に忠実な武士の出現を期待しているのだろう。